

## 平成26年度第3回鳥取県和牛産肉能力検定委員会概要

日 時 平成26年11月20日(木) 午後1時30分～午後4時00分  
場 所 東伯郡琴浦町松谷606 鳥取県畜産試験場  
出席者 河本委員、相見委員、高橋委員、広沢委員、山下委員、田中委員、木嶋委員、  
宮崎委員、松島委員、小西委員、谷口委員、中山委員  
畜産課 野儀係長  
事務局 畜試 岡垣場長、田淵室長、小江研究員

### 内容

#### 1 協議事項

議題1 平成26年度直接検定第1群「勝美照」の選抜・保留について  
→「勝美照」を直接検定合格とする。

### 説明等

#### 「勝美照(かつみてる)」

- ・平成25年11月8月生。血統は「勝安波－勝忠平－美津照」。畜産試験場産
- ・直接検定 発育+0.6 $\sigma$ 、DG1.11。美点は発育、体深、被毛密度、尻幅。惜しい点は肩後、体伸、肩端、肘後。
- ・母牛の産子成績は「百合風」「勝安波」「夏美安」去勢、去勢、去勢産子で枝肉重量584.4kg、455.3kg、495.6kg、ロース芯面積61cm<sup>2</sup>、58cm<sup>2</sup>、53cm<sup>2</sup>、BMS No.12、9、6。3産目の産子は畜産試験場の短期肥育試験牛であり、24ヶ月齢。
- ・優良遺伝子領域は未検査。

### 意見等

- 肩が悪い印象。
- 牛として魅力的なタイプ。BMSNo12も出ているし、残してもよいのでは。
- 産子成績をみても枝肉重量も取れているし、よさそうだということで、とりあえず保留して様子を見てはどうか。
- ◎肩の悪いところは、惜しい点でもあり、気になるところではあるが、牛として魅力があるという意見もある。産子成績も BMSNo12、9 と出ており、保留してはどうかという意見もある。「勝美照」については選抜ということによろしいか。  
→異議なし。

議題2 平成26年度直接検定第5群の選定について  
→「八重栄」を直接検定牛として選定する。

### 説明等

- ・平成26年6月1月生。血統は「八重勝－福栄－平茂勝」。伯耆町産
- ・発育+1.3 $\sigma$ 。美点は発育、体深、体伸、体上線、骨締まり。惜しい点は尻型、皮膚の厚み、乳徴

- ・母牛の産子成績は「百合茂」「勝安波」「勝安波」の去勢、去勢、去勢産子で枝肉重量574.2kg、498.1kg、365.2kg、ロース芯面積99cm<sup>2</sup>、65cm<sup>2</sup>、60cm<sup>2</sup>、BMS No.11、9、7。3産目は全共候補もれ牛であり、26.6ヶ月齢。
- ・優良遺伝子領域は枝肉重量1領域、ロース芯面積1領域、BMS2領域。
- ・「八重栄」の祖母「はるしげ6」の能力も高く、BMSNo11、8の産子を輩出。

#### 意見等

- 母である「みなづき」の4産目の「あゆみ」、5産目の「わかば」は県共種畜の部の出品牛であり、2頭とも体積のある体型の良い牛だった。「みなづき」産子の枝肉成績はBMSNo11、9、7と肉質も良い。
- 他に候補がいなければ良いのでは。「八重勝」の印象としては、もうひとつ大きくなりにくい子が出ていたという印象であり、発育+1.3σなら、「八重勝」の産子にしてはよい牛。
- これだけで判断といってもよく分からないが、血統的には「菊照土井」が入っている。兵庫ではとてもおいしい肉が出るという種雄牛と聞いている。それが父系、母系にも入っているので良いのかなと思う。血統的にはおもしろいと思う。  
→「みなづき」に何をつけて種雄牛を造るかというところで、「八重勝」にしたが、意見のとおり「菊照土井」の血を濃くしようかというところがひとつあった。また今までの鳥取県の種雄牛では脂肪交雑の育種価としては一番高かった種雄牛であり、非常に能力のある牛ということで後継牛を造った。
- 他の牛もいなくて、そういう思いがあって造った牛であればぜひ選定してほしい。
- 「八重勝」産子を残す最後のチャンスになると思う。残した方が良いと思う。
- ◎血統的にもおもしろいのではないかという意見もあった。+1.3σと発育も良い牛。試験場としても「菊照土井」の血を濃くするという思いもあって交配した経緯もある。この牛については選定するという事によろしいか。  
→異議なし

#### 議題3 1月からの試験種付けについて

→1月から「隆福也」の試験種付けを行う。

#### 説明等

- ・候補牛は「桜5」、「隆福也」、「元花江」、「飛良柴」。
- ・「飛良柴」は、しば系再構築での種雄牛造成。
- ・精液在庫は「隆福也」が599本。「桜5」は精液性状が不安定で在庫なし。「元花江」、「飛良柴」は11月に種畜検査に合格したばかりで在庫なし。
- ・「元花江」、「飛良柴」の期待育種価は母や父の肥育成績がないため、未判明。
- ・母牛の産子成績は「隆福也」が4頭とも脂肪交雑二ケタと非常に優秀。

#### 意見等

- 「元花江」は非常に血統的に流れが良い。これ以上ないというぐらいの魅力的な牛で、これはいいのが出るのではないかと思う。これを使ってみてはどうかと思う。

- どれを選ぶか迷う。特に「隆福也」と「元花江」。今、「百合白清2」、「白鵬85の3」は気高系なので、次に使う種雄牛としては、どちらも生きてくるのでは。早く結果なり、産子をみたい。なかなか絞れと言われると難しい。
- 4頭の牛をみせてもらって、一番気になるところは、「元花江」みたいに大きくなならない牛はそこそこ肉がついているが、発育のよい「桜5」はあれほど傷んで病牛に近いような痩せ方をしている。1頭1頭みながら管理してほしい。鳥取県のみどり三兄弟を見るため、次々と人が見に来る中で、やはり育成牛の考え方をきちんとしてほしい。それから「元花江」という牛は、「安福久」産子でこれだけ小さい。「安福久」は今、どんどん母牛が残っている状況でこれからの需要がどれほどあるかということ。小さい牛が大きな子を産むならいいけど、だいたい小さい牛は小さい子を産むとしたもので、その時に今度、これが仮に残っていった時に、他の「安福久」産子と比べてどうなのかということ。「安福久」母体にこれをつける人はまずいないと思うが、それを考えてみれば、仮に母牛として残して、みどり三兄弟をつけられるかということと初産の時には少なくともやめた方が良くとか、小さい牛を使う時には、よっぽど心して回りの状況もみながら使わないといけない。血統的にも「安福久」ということで今どんどん増えているので使われにくいのだろうということがあって、私としては「隆福也」、これが今、みどり三兄弟を腹にした時の種雄牛だったり、また逆の交配だったりした時に使いやすいということもある。直検の時に見た時には、もうちょっとよい牛になる予定だったのに管理が悪いということもあって、もうちょっと重量感のある牛になっておるものだと思うけども、それが見られなかったのは残念だけど、こっちを早いこと使って今後、心配なく鳥取県の中での次の交配を進められる状況を作るためには「隆福也」の方を優先して使った方がよいのではないかと思う。
- 何も考えずにいくと「隆福也」。血統もそろってるし、使いやすい気がする。「元花江」の母牛の成績出てくるのはいつ。  
→来年の夏から秋ぐらい。現在、全兄弟を肥育中。
- とりあえず、隆福也でよいのではないかと思う。
- 「隆福也」で良いと思う。肥育成績も良い。  
→精液在庫ですが、「桜5」は残念ながら精液性状が悪いということ、「元花江」と「飛良柴」については11月6日に種畜検査を終了したばかりということで、まだ精液を製造してないという段階。「隆福也」は前々回の検定委員会で直検合格したので余裕を持って精液を貯めれたということ。精液の在庫を考えると我々としては、在庫のある牛で向かいたい。「元花江」については、「もとはな2」のはじめての雄産子ということもあって非常に期待している牛。精液は採精は可能なんですけど100本採れるかというところとちょっと不安があるということ。畜産試験場としては「隆福也」で向かいたい。
- ◎試験場からは精液在庫本数と関連づけた説明があった。「元花江」は「安福久」の母体が多いという現状の繁殖雌牛の飼養状況を加味すると交配は難しいのではないかということ。近いうちに検定を進めていく牛ではあろうと思うが、在庫本数がないということを含め、現状では「隆福也」が妥当なところではないかという意見が多かったのではないかと思う。1月からの試験種付けについては「隆福也」でいきたいと思うがよろしいか。  
→異議なし

## 次回開催予定

1月

内容

- 平成26年度直接検定第6群の選定について
- 現場後代検定終了に伴う「白鵬85の3」の選抜・保留について
- 平成26年度改良基礎雌牛の選定（案）について

ほか